

休眠預金活用事業

孤独を生み出さないための居場所作りの整備
～コミュニティシネマの活用～

NPO法人 アイダオ

NPO法人 侍学園スクオーラ・今人

NPO法人 上田映劇

取り組む課題

- 長野県の子ども・若者の平均自殺死亡率は高く、全国平均を上回る4.1名という数値を記録している。若年無業者は6374人、若年ひきこもりは7900人、不登校は3235人。一方で、また数字に出て来ない課題も多くある。
- なるべく早期の段階で不登校の時代から子どもたちが抱える課題を把握していくことが求められる。

チーム結成のねらい

- 県内でいち早くこども・若者の自立支援がはじまった東信地域で、既存の価値観にとらわれない、NPOだからこそできるユニークな支援を新しく展開していく。
- 侍学園にはこれまで長年培ってきたこども・若者支援の分野において、引きこもりや不登校などで困難を抱えたこどもたちへのアプローチを狙いつつ、上田映劇には地域の新たな拠点としての役割を開拓していくことを期待。
- いわゆる「支援」といったスタンスとは異なる手法でこども・若者たちを「孤立」から防ぎ「居場所」を確保していく。
- 既存の活動や場を最大限に尊重し活かしながら行政にはできないアイデアでこども・若者の「居場所」をふやしていく。

孤独を生み出さないための居場所作りの整備
～コミュニティシネマの活用～

チームと関係団体のイメージ図



今年度取り組んだことの報告

① 連携協議会の開催▶

- ・ アイダオ、侍学園、映劇の3者で月1回の連携協議会を開催。各団体の進捗を報告、ヒアリングの結果報告を共有する。上映会の方向性とコミュニティカフェのスタイルを確認する。

② 学校関係者へのアプローチ▶

- ・ 上田市、東御市、小諸市、佐久市、御代田町、軽井沢町、長和町の教育委員会、中間教室を直接訪問し、不登校の子どもたちの現状をヒアリング。また直接訪問できない中間教室については、アンケート調査を行う。直接訪問は4市3町6施設、アンケート調査は5市8施設。
- ・ ”学校に戻るための中間教室”という位置づけに疑問を抱く家庭も多くみられた。また、その特色もあり、今のところは中間教室の活動として映画の上映会にでかけるというところは、ハードルがある。

今年度取り組んだことの報告

③行政、教育委員会や関係団体 (文化、教育、NPO)との連携強化を図る▶

- 長野県教育委員会東信教育事務所・スクールソーシャルワーカー（SSW）との連携強化：スクールソーシャルワーカーの月例会議に出席。うえだ子どもシネマクラブの活動を説明する。主に上田地域のSSWの先生との連携を密にすることで、取り組みの情報共有や、子どもたちの現状にまつわる情報交換をすることが可能となる。また東信エリアの教職員に配布する「教育だより」にも、今回の取り組みについて掲載していただいた。
- 通信制高校にも同様に企画の説明にでかける。早速授業の一環に組み込んでいただく。
- 地域で活動をする生活支援団体、障がい者アート団体、小劇場、大学、不登校の保護者グループの方達にも拡大協議会への参加を促す。また、小劇場の取り組み「のきした」活動との連携



今年度取り組んだことの報告

③うえだ子どもシネマクラブ



第1回上映会『この世界の片隅に』

日時：2020年8月24日 (月)

①10:00~12:06 (開場9:30) ②13:00~15:06 (開場12:30)

場所：上田映劇

参加者：子ども (3名) 保護者 (3名) 教育・支援関係者 (4名) 芸術関係者 (2名)

第2回上映会『はちどり』

日時：2020年9月24日 (木)

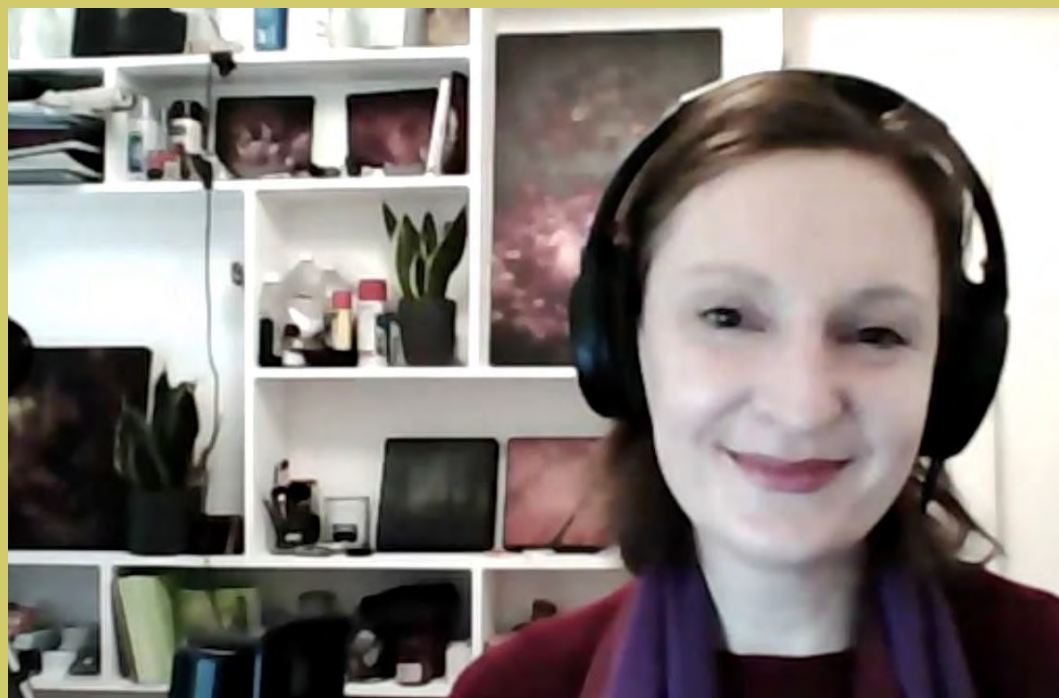
①10:00~②13:00~

会場：トラウムライゼ

参加者：子ども (44名) 保護者 (2名) 教育・支援関係者 (6名) 芸術関係者 (1名) その他 (1名)

今年度取り組んだことの報告

③うえだ子どもシネマクラブ



第3回上映会『ブレッドウィナー』

日 時：2020年10月26日（月）

（映画上映）14:30～16:04

（監督登壇）16:05～

会 場：上田映劇

参加者：子ども（26名）保護者（4名）教育・支援
関係者（11名）芸術関係者（4名）その他（3名）



- ・ ノラ・トゥーミー監督が現地アイルランドよりオンライン登壇！

今年度取り組んだことの報告

③うえだ子どもシネマクラブ



第4回上映会

『ニュー・シネマ・パラダイス』

日時：2020年11月26日（木）

① 10:00~12:03 / ② 14:00~16:03

会場：上田映劇

参加者：子ども（30名）保護者（9名）教育・支援関係者（11名）芸術関係者（1名）その他（2名）



- 35mmフィルムでの上映会のあと、バックヤードツアーを開催。親子が参加してくれた。

今年度取り組んだことの報告

③うえだ子どもシネマクラブ



第5回上映会

『劇場版 ゴン - GON, THE LITTLE FOX』

日 時：2020年12月21日（木）

① 11:00~12:25 / ② 14:00~16:25

会 場：トラウムライゼ

参加者：子ども（25名）保護者（5名）教育・支援
関係者（6名）芸術関係者（1名）その他（0名）



- はじめて会場での監督登壇を行なった。「人形」という存在の大きさ。「人形」に代弁させる。「人形」を介したコミュニケーションの可能性。

今年度取り組んだことの報告

③うえだ子どもシネマクラブ



第6回上映会

作品①：『家なき子 希望の歌声』

日 時：2021年1月18日（月）13:30~15:24

会 場：トラウムライゼ

参加者：子ども（20名）保護者（0名）教育・支援
関係者（3名）芸術関係者（0名）その他（0名）

作品②：『82年生まれ、キム・ジョン』

日 時：2021年1月18日（月）10:00~12:03

会 場：トラウムライゼ

参加者：子ども（2名）保護者（7名）教育・支援
関係者（2名）芸術関係者（0名）その他（1名）

- 子ども向けだけでなく、保護者向けの上映も行う。

今年度取り組んだことの報告

③うえだ子どもシネマクラブ



第7回上映会『アイヌモシリ』

日時：2021年2月22日（月）

①10:30~12:00 ②13:30~15:00

会場：トラウムライゼ

参加者：子ども（名）保護者（0名）教育・支援関係者（3名）芸術関係者（0名）その他（0名）



- 飛び入りゲストとして、支援者の方がアイヌの民族楽器を演奏して下さる。
- みんなの居場所「だらっと」に集まる保護者が観に来てくれた。子どもたちは「だらっと」でスタッフが預かる。

今年度取り組んだことの報告

④コミュニティカフェ



のべ232名が利用

- 7/30(木) 24名 (生徒1, サムガクスタッフ2、メディア4、支援者2、行政1、幼児3、10代2、20代1、30代3、40代3、50代1、70代1)
- 8/23(日) 26名 (生徒9、サムガクスタッフ2、保護者5、10代1、40代1、不明8)
- 8/24(月)10名 (生徒1、支援者1、協議会1、10代2、20代2、30代2、40代1)
- 9/24(木) 38名 (生徒15、サムガクスタッフ5、保護者1、地球環境高校6、支援者2、10代2、30代2、40代1、不明4)
- 10/27(月) 23名 (生徒1、サムガクスタッフ3、支援者1、10代2、20代3、30代5、40代2、50代6)
- 11/26(木) 29名 (生徒3、サムガクスタッフ1、相談者20代女性1、10代9、20代6、30代6、メディア1、70代2)
- 12/21(月) 37名 (生徒15、サムガクスタッフ6、10代3、支援者1、相談者20代女性1、30代8、50代3)
- 1/18(月)午前10名 (生徒2、スタッフ3、30代1、40代4)
午後11名 (生徒9、支援者1、行政1)
- 2/22(月)午前11名 (生徒3、スタッフ2、10代3、20代2、50代1)
- 午後13名 (10代1、20代2、30代5、メディア2、40代2、70代1)







成果

- 通信制高校に通う高校二年の生徒（小学校時代から不登校）。母親との関係に課題を抱えていたが、上映会に母親も参加。それをきっかけに、母親が映劇の会員に。その後、二人で映画を観にくる機会が増えた。会話が増えた。
- サポステから紹介された高校二年の生徒（DV被害者、現在不登校）が上映会に参加。カウンセラーの先生とはあまり会話がないということだが、映画館に来る時はとても普通。会話も問題なくできる。絵（グラフィック）を描くのが好き。
- 中学二年の生徒と親子。息抜きの間として、居場所として、毎月定期的に通って来てくれている。

全体的に、映画館に来ることで、親子の会話が増えた、平日行く場所があってありがたい等の声が多い。

成果

- SSWの先生たちとの連携が進んだ。
- 地域の支援関係者や保護者、研究者とのネットワークが構築できつつある。（拡大協議会の場）
- 各市町村の教育行政と直接対話をしたことで、企画への理解を深めてもらうことができた。それが今後の連携体制の構築につながっていく。学校教育での学びや教育が抱える課題そのものにもアプローチができれば良い。
- メディアや行政広報からの反応が得られやすく、多くのメディアで紹介してもらった。
- 今後、芸術文化の持つ、新たな可能性が広がる。映画監督、プロデューサー等の協力も得られやすかった。

“映画館”がもうひとつの居場所になり得るのだということの証明。支援側のニーズが大きい。

孤独を生み出さないための居場所作りの整備
～コミュニティシネマの活用～

課題

- 対象のこどもたちをどう連れてくるのか。

(スケジュールを事前に知らせる／交通手段の課題をクリアにする／上映作品の幅を持たせる)

- こどもが孤立しているということは、保護者や家族も孤立しているということ。
- 学校に行っている子たちの中にも潜在的な課題が眠っているのでは。むしろ、学校に行けていない子たちの方が息抜きが必要なのかも！？
- 評価方法。

メディア掲載

- 信濃毎日新聞社 2020年8月6日 「学校行きづらい子、映画館においでよ」
- 東信ジャーナル社 2020年8月17日 「コミュニティカフェプレオープン：子ども・若者の新しい居場所整備」
- 信州民報社2020年8月1日 「侍学園が『子どもの居場所作り』事業：上田映劇&アイダオと連携して取り組む」
- 長野県教育委員会 東信教育事務所『事務所便り第4号』生涯学習課より「映画館の新たな可能性」
- 長野県文化芸術情報発信サイト CULUTURE.NAGANO 特集記事
<https://www.pref.nagano.lg.jp/toshinkyu/tayori/r2.html>
- 毎日新聞社2020年11月6日 「映画館を最初の一歩に」
- 信濃毎日新聞社2020年10月29日 「悩める映画の主人公 私と同じ」
- 上田市広報ラジオ 2020年11月19日 「うえだ大好き」



特集

SPECIAL

[ホーム](#) > [特集](#) > [映画館を活用して、子ども・若者の課題に向き合う～「うえだ子どもシネマクラブ」～](#)

特集

- ・『シンビズム』～高め合い、協働する学芸員のネットワークが長野県の美術館とアートシーンを輝かせる～
- ・映画館を活用して、子ども・若者の課題に向き合う～「うえだ子どもシネマクラブ」～
- ・creative.nagano～アートの場をつくる人びと 第2回 岩熊力也さん・大沢理沙さん(木曾ペインティングス)
- ・アーティストは未来を見つめる「頑張るアーティスト応援事業」Part2
- ・アーティストは未来を見つめる「頑張るアーティスト応援事業」Part1

CULUTRE.NAGANO で検索！

今後への展望

- こどもたちが来れる機会（上映会意外の場として、平日の受け入れ、作業のお手伝いをお願いする等）を増やしていく。
- スケジュールをあらかじめ早めに伝え、支援者や保護者の予定がつきやすいようにしていく。
- こどもたちの細かな変化を追うこと。その記録をきちんと記すこと。
- 芸術文化がどの部分にもっとも効果を発揮しているのか？という視点を検証していきたい。
- 学校の先生、中間教室の先生たちとの蜜な連携を。

地域が本来の役割を取り戻し、多様な人の受け皿になっていくこと = 居場所の多様性